

型について検討した。

また、それぞれの性格検査項目から、因子分析によってまとめられた母親6項目（情緒安定性・社会的適応性・主動性・活動性・衝動性・内省性）と子供2項目（個人的・社会的）の得点をもとに、単相関係数および偏相関係数を求め、母子の性格の関連性を検討した。

さらに、母子の性格を一体として扱い、齟齬との関連を検討するため、YG性格検査用紙の12項目と幼児・児童性格診断検査用紙の個人的・社会的・体質的安的性を除く10項目の、合計22項目の得点を変数としてバリマックス法による因子分析を行い、共通因子を抽出した。そしてこの共通因子の因子得

点をもとに平均値の差の検定を行い、母子の性格と齟齬罹患型について検討した。

：結果と考察：

1) 性格特性項目の得点

YG性格検査用紙および高木・坂本の性格診断検査用紙の各検査項目の得点を齟齬罹患型別に示したのが表4である。

その結果、O型とC型、A型とC型の間に、母親や子供の性格特性の違いがあることが分かった。即ち、齟齬のないO型の母親は、齟齬が全体に蔓延してしまっただけのC型の母親に比べ、より神経質な傾向がある。そして子供自身は、C型の方がより攻撃的で衝動的な性格特性を持っている。

一方齟齬が部分的にできてしまったA型の場合、C型に比較して母親の性格特性には差はないが、子供自身は、C型のよりも温和・理性的で、自制力のある性格特性となっている。

O型とA型、A型とB型、B型とC型およびO型とB型の間では性格特性の有意の差はなかった。

表4 性格検査項目の平均値

幼児・児童性格診断検査	齟齬罹患型			
	O型	A型	B型	C型
顯示性が強い	3.00	3.10	3.00	3.65
神経質	3.78	2.73	2.98	2.94
情緒不安定	2.50	1.76	2.27	2.35
自制力なし	2.94	2.37**	2.78	3.58**
依存的	4.11	3.41	3.37	4.00
退行的	3.17	3.47	3.88	3.42
攻撃・衝動的	2.61**	2.90**	2.88	4.06**
社会性なし	2.06	2.18	2.00	3.13
家庭へ不適応	2.89	2.41	2.68	3.03
学校へ不適応	1.28	1.29	1.61	1.48
体質的不安定	3.00	2.88	2.75	2.97
個人的不安定	22.11	19.67	21.14	24.00
社会的不安定	6.22	5.92	6.29	7.65
YG性格検査	齟齬罹患型			
	O型	A型	B型	C型
抑うつ性大	5.61	4.41	4.90	4.29
気分の変化大	8.22	7.06	6.86	8.06
劣等感大	6.61	5.80	6.82	6.10
神経質	8.77*	5.53	5.55	5.84*
主観的	6.33	4.75	4.35	4.87
非協調的	4.50	3.55	4.65	4.87
攻撃的	9.17	8.35	8.90	9.71
活動的	10.94	11.51	11.51	12.10
のんき	9.78	9.04	10.27	10.84
思考的外向	11.61	11.72	12.55	13.00
支配性大	9.33	9.98	9.20	10.10
社会的外向	11.56	12.47	11.29	12.64
情緒不安定	29.22	22.80	24.14	24.29
適応性小	20.00	16.65	17.90	19.45
活動性大	20.11	19.86	20.41	21.81
衝動性大	20.72	20.55	21.78	22.94
内省性小	21.39	20.76	22.82	23.84
主動性大	20.89	22.45	20.49	22.74

平均値の差の検定： * : p < 0.05, ** : p < 0.01

表5 母子の性格の相関係数とその検定結果
(左側が単相関係数, 右側が偏相関係数)

母親/子供	個人的安定		社会的安定	
	単相	偏相	単相	偏相
情緒安定	0.569**	0.202*	0.398**	0.051
社会的適応	0.450**	0.185*	0.208*	-0.049
主動性	0.157	0.012	-0.343**	-0.281*
活動性	0.027	-0.131	-0.104	0.036
衝動性	0.095	0.116	-0.056	0.010
内省性	0.113	0.032	0.004	0.061

* : p < 0.05, ** : p < 0.01

2) 母子の性格の相関

竹井らは、歯学部をを対象に東京工業大学心理学研究室性格調査表を用いて、母子間の性格に高い相関が見られたことを報告している。今回は、YG性格検査用紙および高木・坂本の性格診断検査用紙を用いて、表5に示すように母親6項目、子供2項目のそれぞれの得点をもとに単相関・偏相関係数を求めてその関係を検討した。

その結果、母親の情緒安定性、社会的適応性、主

動性の項目と子供の個人的安定性、社会的安定性の項目が、単相関・偏相関ともに有意であった。即ち母親が情緒的に安定し、社会的適応性が高いほど、子供は個人的に安定した性格をしている。また、母親が支配的で社会的に外向性の傾向が高いほど、子供は社会的に不安定な傾向があることが示された。

母親の活動性、衝動性、内省性は子供の性格と相関が認められなかった。

3) 因子分析的検索

母子の性格特性に相関の高い項目があること等から、齶蝕との関連を検討する上でも、母子の性格は一体として分析する方が適切であると考えられる。

そこで我々は、母親の性格特性項目と子供の性格特性項目をまとめて、さらに内部相関の高い項目群を一つの因子としてとらえ、齶蝕との関連を検討するために因子分析法を応用した。

その結果、母親の性格特性項目と子供の性格特性項目の合計 22 の独立した項目が、4つの共通因子によってほぼ説明しうることがわかった。また抽出された共通因子は、因子負荷量の高い項目をもとに、子供安定性(第1)因子、母親消極性(第2)因子、母親不安定・不適応性(第3)因子、子供社会性(第4)因子と名付けられた。しかし、子供安定性の因子については、母親の項目、特に母親の安定性に関する項目が比較的高い因子負荷量を示しており、子供のみ因子とはいきれない(表6)。

この共通因子の因子得点を求めることによって、個人や集団を多次元空間の中でとらえることが可能である。表7には齶蝕罹患型別に各因子得点の平均値と標準誤差が示してある。

さらにこの得点を齶蝕罹患型間で比較するため、t-検定を行ったところ、母親不安定・不適応性因子についてはO型とB型の間で有意差が認められた($p < 0.05$)。また、子供安定性因子については、A型とO型の間で、t-検定では有意差が認められた($p < 0.05$)ものの、分散に違いがあり、Welchの検定を行ったところ有意差が認められなくなった($p = 0.07$)。母親消極性、子供社会性の因子については齶蝕罹患型間の有意差は認められなかった。

母親消極性、子供社会性の因子は、齶蝕の広がりとはほとんど関連がないものと考えられる。また子供安定性因子については、今回の結果では関連性は認

められなかったが、齶蝕罹患型と関係がないものとして断定することはできない因子と思われる。そして母親不安定・不適応性因子については、その因子得点が高いほど、齶蝕のない子供となっている傾向が認められ、乳歯齶蝕との関連性、即ち、性格的にはむしろ問題とされる不安定・不適応性の高い母親の場合、かえって齶蝕予防の実践が効果的に行われていることが示唆された。従って、齶蝕予防を行っていくうえで、母親不安定・不適応という性格の因子も考慮する必要があるものと思われる。

表6 各共通因子の因子負荷量

因子名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	子供安定性	母親消極性	母親不安定・不適応性	子供社会性
子供				
自制力がある	0.78	0.03	-0.22	0.20
顕示性なし	0.68	0.15	-0.14	-0.01
温和・理性的	0.63	0.00	-0.09	0.10
生産的	0.62	-0.10	-0.11	0.25
家庭へ適応	0.61	-0.00	-0.18	0.04
自立的	0.49	-0.17	-0.23	0.40
学校へ適応	0.06	-0.13	-0.06	0.71
社会性がある	0.15	-0.22	-0.04	0.67
情緒安定	0.33	-0.05	-0.38	0.37
神経質でない	0.20	0.10	-0.20	0.36
母親				
順従的	-0.14	0.81	0.10	-0.13
社会的内向	-0.00	0.78	0.16	-0.19
のんきでない	0.32	0.68	0.08	0.15
攻撃的でない	0.24	0.64	-0.27	-0.07
非活動的	-0.12	0.62	0.08	0.08
即う性大	-0.05	0.07	0.81	-0.16
主観的	-0.14	-0.09	0.76	-0.14
神経質	-0.32	0.00	0.75	-0.09
非協調的	-0.34	-0.04	0.58	-0.15
気分の変化大	-0.42	-0.09	0.56	-0.25
劣等感大	-0.32	0.38	0.51	-0.26
思考的内向	-0.02	0.11	0.48	0.10

注：下線は各共通因子の中で最も高い因子負荷量が0.4以上であるもの

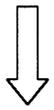
表7 齶蝕罹患型別の因子得点と検定結果
(平均値±標準誤差)

因子名	齶蝕罹患型			
	O型	A型	B型	C型
第1因子	0.06±0.17	0.13±0.11	0.01±0.13	-0.28±0.19
第2因子	0.02±0.22	0.03±0.12	0.07±0.14	-0.18±0.16
第3因子	0.43±0.19*	-0.06±0.14	-0.03±0.11*	-0.10±0.17
第4因子	0.03±0.17	0.10±0.11	-0.03±0.13	-0.14±0.14

平均値の差の検定：*：P < 0.05



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



:研究目的:

乳幼児期の齲蝕については、母親との生活関係が大きな影響力を持っていると言われている。哺乳びん齲蝕等はその好例であろう。しかし母親と子供の関わり方と乳歯齲蝕の関係についての報告は少なく、また母親と子供の関わり方については、行動科学的な考察が必要である。そこで我々は、母子の性格に注目し、子供の齲蝕と母子の性格との関係について検討した。